

インフラ整備の充実について

金ケ崎町

1 背景

- (1) 県人口問題対策本部において取りまとめた「人口問題に関する中間報告」において、就職期の流出防止として企業誘致等が施策の方向性として示されている。
- (2) 国においても「まち・ひと・しごと創生本部」を設置し、若い世代の就労促進、東京一極集中の歯止めをかけ、地方に「しごと」をつくり、地方に「ひと」の流れを生みだし、「まち」を創り出すこととし、長期ビジョン、総合戦略を策定することとしている。
- (3) 地方自治体も同様に「まち・ひと・しごと創生法」において地方人口ビジョンと地方版総合戦略の策定の努力義務が課せられている。

2 地方への「しごと創生」の課題

- (1) 地域固有の資源の活用とともに雇用の質（やりがい、安定した雇用形態等）を重視した取り組みが重要であるが、地方にしごとを創出することは簡単なことではない。
- (2) それぞれの市町村においてしごと創生の取り組みを進めるほか、市町村間の連携した「しごと創生」も検討すべきと考える。
- (3) しごと創生の内容によっては、特定の市町村への人口集中が懸念され本県の均衡ある発展を阻害する恐れがある。

3 しごと創生に向けての提案

広い県土を持つ本県にあっては、高規格交通網や通信設備を整備することにより、それぞれの市町村の社会減を減らすことになるなど課題解決に結びつき、「まち・ひと・しごと創生」につながるものと考えられる。

また、平成 28 年に開催される岩手国体には、多くの来場者のほかメディアに対しても本県の整った交通網等について、情報発信をすることができる大きなチャンスであり、結果として本県、各市町村の「しごと・ひとの創生」につながると考えられる。

- (1) 各市町村で策定の努力義務が課せられた地方人口ビジョンと地方版総合戦略について、その策定にあたっては、全市町村で早期に策定できるように県の指導、助言、協力をお願いしたい。

また、戦略の内容については、市町村ごとの背景や特色を活かした内容としながらも、しごとの創出に関連する道路等インフラ整備については、

県を含め県内市町村が統一した幹線道路の整備方針を示し、その内容を各市町村が戦略に盛り込み国道等の整備を加速させる。

- (2) 国道の拡幅整備等をはじめ、計画されている県道整備の前倒し等、関係市町村も円滑な事業推進に向け、用地交渉がスムーズに行われるように地権者の調整等の協力を行いながら取り組む。
- (3) 具体的な例として、国道4号金ヶ崎区間は、北上拡幅整備事業と水沢東バイパス整備事業に挟まれたボトルネック区間であり、北上市、奥州市、当町の3市町において渋滞が著しい区間である。さらに大型商業施設の立地による買い物客の増加等から慢性的な渋滞も生じており、物流面に支障をきたしていること、さらに平成28年の国体開催時は当町の陸上競技場が北上市で開催される陸上競技の練習会場となっていることなどメインの競技会場ではなくても交通量の増加することが県内各地でも見込まれることから、関係市町村と連携しながら、早期の改良を進めようとするものである。

県内国道整備状況図

